

住民主体のまちづくりを様々な視点から紹介するこのコーナー。今回は第1回景観・まちづくりコンクールくらしの景観・まちづくり賞優秀賞を受賞した榎原町並み整備協議会によるまちづくりの取組です。

阪急桂駅から西に歩いて10数分、旧山陰街道の宿場町であったこの地域では、今も残る宿場町の歴史・文化の「再認識」と「共有」を活動の源としたまちづくりの取組が着実に進みつつあります。

都の意匠を持つ街道筋の家々

榎原宿は、丹波や山陰と京を結ぶ山陰街道と、嵯峨街道の結節点であり、江戸時代には京の都に入る直前の宿場町として、商いを中心に大いに繁栄し、京町家にも引けを取らない洗練された格子等で構成された「都の意匠を持つ」家々による美しい町並みを創りだしていました。



格子やむしこ窓を有する家々

まちづくり活動の背景

鉄道の開通は町の営みを徐々に変えていきました。意識も含めたくらしの変化や、建物の老朽化により、町並みも徐々にその姿を変えていきます。また、洛西ニュータウン等の開発や自家用車の普及による通過交通の増加など、町並み景観をはじめとするまちづくりの課題は大きくなりつつありました。

まちづくり活動は、そういった課題解決のための個々の人の努力に限界を感じ、町並みを保全するルールづくりの必要性を論議する気運の高まりを受けて、自治会有志による町並み保存の諸制度などの学習から始まりました。平成8年度からは協議会を設置し、京都市や専門家の支援も受け、様々な創意・工夫に満ちた取組が実施されていきます。このときに、「愛宕講」や「伊勢講」等の「講事」や、今も普通に使われている屋号等に象徴される地域の歴史的な文化に支えられた人の繋がりが、まちづくり活動を進める支えとなりました。

まちを良く知ることを大切にしたい取組

交通問題での取組として平成9年8月には、「旧山陰街道の交通に関する（アンケート）調

査」を実施（回答数270）、自家用車の保有率、移動手段や通行制限等に対する住民意識を把握しました。また、同年9月には交通量調査を行い、ピーク時の交通量や車輛の方向、渋滞の原因等を確認し、対策を考えるための具体的な資料を得ました。

一方、町並み景観の問題については、「母屋の建築時期」などのアンケート結果と、平成11年の「歴史的建築様式の継承に係る調査」を基にその特性を把握しました。

前者からは、江戸時代の建築7件を含む戦前建築が約4割あることが確認されました。また、後者からは、建築の特徴として、「中2階」の「むしこ窓」を持つ家と「本2階」の比較的新しい建物が、「出格子・面格子」などの歴史的意匠を共有し、町並み景観をまとまりのあるものとしていること、また、ゆるやかな道路の傾斜と道の曲がり、それぞれの質の高いデザインの家々を町並みとして、より引き立たせている効果をもたらしていることを確認しました。



榎原陣屋址（本陣）

地域の歴史、文化については、会長自身が郷土史家であったことも幸いし、「講事」等を通じて伝えられてきた話や、様々な文献等の資料、160件以上を確認した屋号の調査等を通じて、体系立てて、深く掘り下げられ、わかりやすく整理されました。

輪を広げ、確信を深めていく取組

それぞれの取組が地域住民の共通のものとなるよう、学習会やシンポジウムの開催と共に、「榎原町並みニュース」を発行してきまし

た。また、駒札の設置や、自治連合会ニュースへの「駒札紹介」の記事の掲載等により、地域内外に取組の輪を広げる活動も行っています。



地域の歴史を伝える駒札

他地域への見学は、自らの町を客観的にみる機会ともなり、歴史的建物の質の高さと連続性など、守ろうとしている榎原の町並み景観の価値の高さを再認識させました。また、福井県熊川宿の見学会での、外観は保全しながら、独立性や機密性の確保のための間仕切りや建具の変更や、利便性の向上のための新しい設備による台所や浴室の改修等が具体的に示された「モデル住宅」との出会い、景観の保全と現代的で快適な住まいが両立できることを知ることができ、活動に弾みをつけました。

榎原のこれから

活動は徐々に具体的な成果を生み出して来ています。交通面では、通学バスの路線の一部の変更を実現しました。また、交通規制等も検討しています。

町並み景観の面では、伝統的で洗練された格子などのデザインによる表構えの改修が最近2件行われました。また、活動をより具体化するため、平成11年3月には、景観整備の目標（案）として、①景観特性に応じた榎原らしい景観の維持及び向上に努める、②居住環境の改善のための協議会による相談支援、③京都市の「界わい景観整備地区」等の制度も考える、④景観の維持・向上を支える伝統技能を持つ職人への支援、が提案されました。

豊かな歴史や文化、それを維持発展させてきた人々の力により、京都らしい宿場町榎原の個性と魅力あふれるまちづくりが今後より一層、進んでいくことが大いに期待されます。

榎原町並み整備協議会会長 豊田英嗣さん



地域の役員の方々がその気になってきたことが喜びであり、心強く感じています。

会の活動を発展させていき、より多くの地域の人に榎原の町並みや歴史を知ってもらい、近隣の人も含めて、榎原の町名に誇りを持ってもらうと同時に、交通と景観という地域課題の解決に向けて、様々な活動に取り組みたいと思っています。

榎原自治会会長 服部友治さん



地域の皆さんの意見を聞いて、地域住民だけではなく、地域に来る開発業者などに対して、この地域にふさわしい建物を建ててもらおうためのルールづくりが出来ればと思っています。

住民の皆さんの気持ちが一歩ずつになってきた段階になれば、具体的な手法などについてさらに煮詰めていきたいと思っています。